

第5回 かけがえのない「いのち」を守る座談会

報告書

令和6年11月10日(日)、本学と「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造コンソーシアムの共催事業である「第5回かけがえのない『いのち』を守る座談会」を富山大学杉谷キャンパスで開催しました。

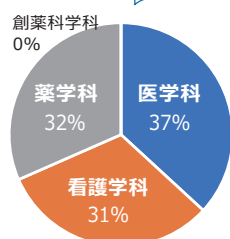
本事業は、県内高等学校の1・2年生を対象に未来の先端医療を担う有能な人材育成につなげることを目的に毎年開催しています。

今年は、医師や看護師、薬剤師などを目指す73名の高校生が「手のひら型プレート」で挙手を行い、齋藤学長、医薬系若手教員、若手薬剤師や学生たちに次々と質問を投げかけて、熱気に満ちた言葉のキャッチボールを繰り広げました。

- ◆日時 2024年11月10日(日)
13:00~16:30
- ◆場所 富山大学杉谷キャンパス
- ◆対象 県内高等学校1~2年生(40名程度)
- ◆スケジュール
 - 12:30~ 受付(講義・実習棟 大講義室)
 - 13:00~ 開会の挨拶
 - 第1部
 - 13:05~ 学長講話
 - 13:35~ 学長と語り合おう
 - 第2部
 - 14:20~ パネルディスカッション
一緒に「いのち」について考えよう
 - 16:30 閉会

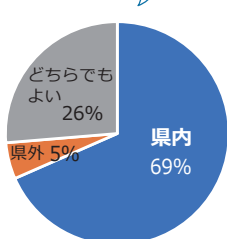
座談会参加者アンケート(回答数19人)

あなたが今、
一番関心のある学科を
一つ選んでください



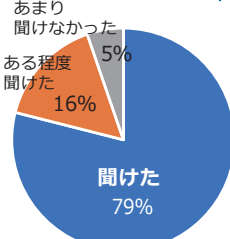
- 医学部(7人)
- 看護学部(6人)
- 薬学部(6人)
- 創薬科学科(0人)

進学先は、
どちらを
希望しますか



- 県内(13人)
- 県外(1人)
- どちらでもよい(5人)

自分の知りたい
ことを聞くことが
できましたか



- 聞けた(15人)
- ある程度聞けた(3人)
- あまり聞けなかった(1人)
- 聞けなかった(0人)

今回の「いのち」を守る
座談会に参加して
良かったですか



- 良かった(19人)
- ある程度良かった(0人)
- あまり良くなかった(0人)
- 良くなかった(0人)

参加高等学校(13高校)

富山高等学校 富山中部高等学校 富山東高等学校 高岡高等学校 高岡南高等学校
福岡高等学校 魚津高等学校 氷見高等学校 南砺福野高等学校 大門高等学校
富山第一高等学校 富山国際大学付属高等学校 片山学園高等学校

高校生からは、医療やくすりの研究などについての質問が寄せられ、「いのち」を守る「医学・薬学・看護学」への理解が深まる一日となりました

【第1部】

学長講話



齋藤学長は、「これからの医療のあり方」と題し、近年の医療の変化について、①精神的ケアを含めたトータル医療②チーム医療への進化③医療の高度化と医・看・薬の連携④生涯学習の必要性などについて紹介されました。

また、元旦に発災した能登半島地震では、富山大学附属病院のDMAT(災害医療チーム)の派遣やヘリポートを活用して多数の被災患者を受け入れたことも紹介。人々の命を守る医療人として働くことのすばらしさを伝え、将来は本学で学び、立派な医療人に成長してほしいと期待を寄せました。



学長と語り合おう

医師を目指す高校生から「医療に携わる中で、良かった又は辛かったことは」との質問に、「重篤な患者をチームの皆で助け、元気に退院する日を迎えた時は、本当に嬉しくやりがいと幸福感が得られ、人の命を守るためであれば、勉強も苦しく感じない。ただ、身体的にハードで辛いと感じるときもあるが、心は幸せですよ」と回答。また、産婦人科医や学長としての様々な経験を語りながら、希望に向かい進んでいって欲しいと未来を担う高校生たちへ温かいエールが送られました。

「いのち」について考えるキッカケになりました！

- 学長の具体的な経験を交えながら話して下さったので、わかりやすかったです。
- 「いのち」との関わり方や患者一人一人の向き合い方について、産科医目線で助産師について話をしてくださり嬉しく思いました。夢を叶えるために勉強を頑張ろうと思いました。
- 富山大学が主に力を注いでいる内容や医療に関する知識をより深めることができて良かったです。
- 生涯に渡り学習していくことの重要性を再認識する事ができました。
- 医療の現場で働いた経験がある方や現役の方の話を聞くことが普段は出来ないので、座談会を通して聞くことができて良かったです。
- 実際に医療に携わる方の立場からのお話を聞いて、体力がいることを知り、改めて「いのち」について考えるきっかけになりました。

コミュニケーション能力など、広く学ぶことの大切さを感じました！

- コミュニケーションのスキルを高めたり、日進月歩で進んでいく医療について、常に勉強をして行く事が大事であることを学びました。
- 医療の現場で必要なのは技術だけでなく、体力やコミュニケーションをとることだということがわかり、今後の生活に生かせるところを生かしていこうと思いました。
- 色んな国の方との交流もできたらいいなと思いました。英語を勉強し続けてコミュニケーション能力を高めていきたいです。



今年はオリジナルトートバックを作成し配布しました。



チーム医療の大切さを知りました！

- 多職種が一つになって一人の患者さんのために、最善策をスタッフみんなで考え関わっていると聞き、とてもワクワク感がありました。みんなに支えられながらだと、患者さんも頑張れる気持ちになるんじゃないかと思いました。
- チーム医療という初めての言葉を聞きましたが、その重要性がわかりました。最新の情報を共有する事で早期に患者さんの社会復帰を促し、患者さんへの負担を軽減していくことにつながると感じました。また、少しの変化に気づきやすくなり、様々な視点から患者さんを見る事が可能になると感じました。

【第2部】

パネルディスカッション「一緒に『いのち』について考えよう」

パネリストには若手教員の木戸医師・診療助手(附属病院)、伊井助教(看護学科)、大石講師(薬学部)、条助教(和漢医薬学総合研究所)、兼清薬剤師(附属病院)に加え、医薬系の学生4名が登壇。全員から仕事や学科の魅力、面白いところなどが紹介されました。

次いで、薬学部の地域枠に興味がある高校生から、「地域枠で入った学生は、他の学生と違う授業があるのか」との質問には、パネリストの他に酒井副学長や石田参事・富山県厚生部くすり振興課長からも説明があり、富山県や県内の製薬企業、病院、薬局などと連携した授業が開設されていることが紹介されました。

この他、仕事のやりがい、勉強の仕方、学科や職業を選択した動機などの様々な質問があり、自身の経験にもとづくパネリストからの話に、参加者は熱心に聞き入っていました。

- ◆オブザーバー 齋藤学長、酒井副学長
- ◆パネリスト【教員】 木戸医師・診療助手(附属病院)、伊井助教(看護学科)、大石講師(薬学部)、条助教(和漢医薬学総合研究所)、兼清薬剤師(附属病院)
- ◆パネリスト【学生】 齋藤さん(医3年)、出戸さん(看4年)、沖野さん(薬5年)、高井さん(院M1年)
- ◆司会・アシスタント 新井(事務局)、萩原(事務局)



大学について具体的に知ることができて、富山での進学を考えるきっかけになりました！

- 専門の先生や富山大学に通っている学生さんの話が聞けて、リアルに大学のことや進学後のことを知れて良かったです。
- 聞いていてとても納得させられる事、知らなかった新しい情報も聞けた事が、本当にこの会に参加できて良かったと思いました。
- 特にバイトやクラブ活動をする時間があることを知れて良かったです。
- たくさんの学科について話を聞く機会がなかったので、今まで知らなかった学科や学問について聞けて、視野が広がりました。
- 医療の様々な職種について話を聞くことができ、自分が今まで興味を持っていなかった薬学についても話を詳しく聞くことができて、今後の進路について考え直そうと思う良いきっかけにもなりました。
- 貴重な話をたくさん聞けて楽しかったし、富大を目指してみようかなと思うきっかけにもなりました。
- 薬が有名な富山だからこそ体験できることや学べることがあると知り、改めて富山で学びたいと実感しました。

和気あいあいと質問しやすい雰囲気でした！

- 笑顔を向けてくださったり、面白い話をしてくださったりと質問しやすい環境を作ってくくださったのがとてもありがたかったです。
- 先生方と学生がコミュニケーションを密にしているのを見て、和気あいあいとした雰囲気の中で質問しやすかったです。
- まず初めに先生方の自己紹介があったので、どの先生にどんなことを聞いてみようかのイメージが持てました。
- 地域枠の質問にパネリストの大石先生だけでなく、酒井先生や県庁の方も答えてくださったので嬉しかったです。

他の高校生の質問を聞いて参考になりました！

- 他の高校生の質問を聞くことで考えの幅が広がり、新たに知りたいことができて良かったです。
- 自分と同じことを疑問に思っている人がいて、その質問を通して疑問を解決できたので良かったです。
- 医学部の説明を聞くためにきたが、他の看護科や薬学部の詳しい内容も知ることができてよかったです。

大学受験に向けて頑張ろうと思いました！

- 高校生のうちから、学んでおくべきことを知ることができてよかったです。
- 受験時にどのようにモチベーションをあげて受験勉強に取り組んでいたのかを教えてもらい、私自身モチベーションが下がることがあったりするので、対策方法などを参考にしていきたいと思います。



高校生と富山大学長や若手教員、大学生との“直球” 会話のキャッチボール！

富山県の医療や医薬品産業の未来に期待すること

- 患者一人一人に寄り添った相談がしやすい医療環境が整えられたら良いと思います。医者や看護師、薬剤師以外の医療技術職の方々の素晴らしさも世間に浸透すると良いと思いました。
- 県内だけでなく、県外と積極的に連携し、お互いの短所をカバーしあい、より良い医療となることです。
- グローバル医療の最先端になれるように期待しています。
- 「くすりの富山」として、これからも地域に根ざした医療を提供して欲しいです。
- 「くすりの富山」のイメージを日本だけではなく世界中に広め、認められるように、私も将来は薬剤師として頑張りたいです。
- 薬について歴史のある富山ならではの環境を活かし、医薬品産業の研究を深めてさらに発展することです。治療薬に限らず、和漢や誰もが使った化粧品などの分野にもつながってほしいです。
- 漢方医学をさらに広めてほしいです。
- 医師不足も改善され、薬の研究も盛んになり、富山だからこそ新たな新薬ができたなら嬉しいなと思います。
- 現在、産後2週間検診が定着しているため、今後更なる産後ケアの充実を期待します。そして、産後うつにより自ら命を絶つ人が一人でも少なくなることを期待します。
- 富山のくすりが日本だけではなく世界にも広がるといいなと思います。

運営・企画など、全体を通じて改善すべきと思われる点

- グループなど少人数での話し合いや意見交換の時間があるとより内容の深い座談会にできると思いました。
- 助産師の方が1人もいなかったことが少し残念に思いました。助産師は選抜ということもあり少し特殊なように感じます。そういった人の話も聞けてたら良いものになら思いました。

運営・企画など、全体を通じて良かったと感じたこと

- とても楽しく充実した時間となりました。自分の中でアドレナリンが沢山分泌されたと思います。
- 参加してみて予想していたよりとても楽しく内容の濃い時間でした。



- 先生方や学生さんたちの仲の良い雰囲気が伝わってきて良かったです。
- 学部の先生や学生さんに話を聞くことができるので、異なった視点で話を聞くことができ良いと思いました。
- 現在気になっていることを直接先生方や、富山大学の学生さんから話を聞く事ができ参考になりました。来年度も開催して欲しいと思いました。
- 実際に従事されてる方からの意見はとても貴重だと思うので、今回のようなパネルディスカッションがあったらいいと思います。
- 同じ人ばかりでなく、できるだけ多くの方が質問できるよう工夫がされている所が良かったと思います。
- 挙手ではなく、手がついている棒を使用したのが発表しやすい雰囲気になり良かったです。
- プログラムが見やすかったり、休憩を2回とってくださったり、お茶が配られたのはとてもありがたかったです。
- 参加者特典が豪華で良かったです。
- 事前にもらったプリントをもとに質問を考えてることができたので、心の準備ができました。

個別相談会

座談会終了後、別会場で個別相談会が行われました。

人前では聞きづらい事も質問できるとあって、会場には多くの生徒が詰めかけ、和やかな雰囲気のなか相談会が行われました。

参加者からは、「現在、気になっていることを気軽に先生や学生さんから話を聞くことができ、とても参考になりました」などの感想が寄せられました。

